

よかつた

透析施設見学会

びっくりした透析現場

五月十六日十時から「さわやか」小倉地区のボランティアさんの透析室見学会がありました。

当日は5名のボランティアさんが、江頭会長とともに大手町病院透析室を訪れました。案内は中村婦長が、忙しい中、貴重な時間をさいて、一時間にわたり説明がありました。

透析室の入口から、清潔地

域になっているので、殺菌マ

ットが敷いてあり、足元の埃を除去し、全員が白衣を着けました。患者さんは、その後シャント部分を消毒液で洗い部屋へはいります。

透析室の入口で既に緊張感が走ります。いよいよ、透析治療の現場に移ります。治療を受けている患者さんの横に集まり、中村婦長の説明を聞きます。

患者の腕には、静脈に動脈を吻合したシャントがありま

す。このシャント部分に触れると、心臓から押し出されてくる血液の流れが聞こえます。シャント部位に二本の針を

穿ち、一本は体外に血液を出し、それが人工腎臓(ダイアライザー)を通過して、あと一方から体内に流入します。

この工程の中で人工腎臓が患者の血液を浄化し、同時に水分を除去します。

透析中は絶えず、患者の血液は二百ccほど体外に出ています。

透析患者は尿が出ないので食事の時やその他で水分を摂ると、その水分が全て、体内に蓄積されます。その水分を

4〜5時間で除去するので2kg増えていると、一時間に700ccほど水分を除去することになります。これが透析者にとっては、大変な負担になります。透析後、血圧

の低下や様々な症状が出てきます。普通は治療が終われば気分爽快になるのですが、透析治療に関するかぎり、治療後がむしろ体調に変化がきて具合が悪くなるのです。

コーディネーター学習会

初めての学習会

六月六日十五時から東部福祉会館でコーディネーターの研修会を行います。講師は北九州市保健福祉局児童家庭課の阜中順子氏を迎えます。

「さわやか」設立以来、我流のコーディネーターをしてみました。やはり、基礎知識として、基本だけは学んだ方がいだろうというところになり、梅雨の時期を選び学習することにしました。

参加者は八幡・小倉のコーディネーター、パート事務員

このように説明を受けて、ボランティアの皆さんは、「なるほど、透析後にきつがる原因がわかった」「今後はあまり帰るのを急がせたらいかんネ」と語り合っていました。この見学会で透析治療の現場を見ることが出来、たいそ

う勉強になったと、参加者全員興奮気味に現場から帰途につきました。大変勉強になったので、他のボランティアさんにも是非見学会をした方がいいとの意見がだされました。

ボランティア紹介

(アンケートより)

※山田 勲さん
住所 小倉北区赤坂

◎応募の動機

昔からボランティアアしていた。20歳の時から…。この会に参加するのは人に勧めるにはまず自分から思っている。

※中野 晃一さん
住所 八幡西区茶屋の原

◎応募の動機

無理のない程度のさわやかなお手伝いが出来ればと思っています…

◎「さわやか」に一言

①出来れば多くの方に目的をわかってもらいたい。人がやらないことをやっている。

②大きくなって、ボランティア専用車を配車することが出来ればと考える

◎趣味・特技

特になし

◎ボランティア活動とは

ボランティアという言葉は今やっているが永く続いて欲しい。人にしてやるのではなく、させてもらっていると

◎「さわやか」に一言

有意義な活動だと思えます。さわやかな発展を期待します

◎趣味・特技

テニス
◎ボランティア活動とは
人間の助け合い運動だと思います。

第6回

ボランティア研修交流会

梅雨時にじっくり勉強を

ボランティアさんの研修交流会は年三回開催しました。(昨年度)今年度も三回はし

ようと計画しています。一回目は青海島観光バスを貸切り行いました。四月末

晴天の下、バスの中での講義そして、現地での散策と、盛会のうちに終了しました。

一回目は、七月十八日十時より、東部福祉会館(NHK隣)で開催します。講師は、

北九州市社会福祉協議会・ボランティア・センター次長の石川有二氏にお願いしています。梅雨の間、遊び心のつかないうちに、純粋に学習をしようと計画しました。

暮れには、忘年会を兼ねた楽しいパーティーを行う予定にしています。

ボランティアの皆様の多数の御出席をよろしくお願いいたします。

小倉第一病院のインターネットに「さわやか」が宣伝してあります。インターネットのアクセスは www.sphere.ad.jp/kdh です